

2011年3月17日プレスリリース

参照番号：1410

<http://www.iso.org/iso/pressrelease.htm?refid=Ref1410>

## ISO の雑誌が社会的責任について取り上げる



社会的責任（SR）に関する規格である ISO 26000 の発行から 5 ヶ月が経ち、雑誌『ISO Focus+』2011 年 3 月号は、社会的責任に関する最新動向の幾つかを取り上げ、他誌にはない洞察を与えている。

組織が社会、経済及び環境に与える影響は、組織の全体的なパフォーマンスの把握においてますます重要な要素となってきた。組織とそのステークホルダーはともに、社会的に責任のある行動を持続可能な発展に貢献する手段として考えるようになってきている。

### ISO Focus+ 2011 年 3 月

『ISO Focus+』の 2011 年 3 月号では、ISO 26000 がいかに社会的責任をあるがままに伝えているかを取り上げている。既に、先進国、途上国の双方の組織は、大小を問わず、その規格を実施している。その事例は、本誌の特別報告に記載されている。

同様に、持続可能性や SR の分野における主な組織（例えば、アカウンタビリティ社、GRI、国連グローバル・コンパクト）は、関連する文書を整合させ、既に発行したり、発行しようとしている。本誌はまた、ISO 26000 の作成に携わった議長団と幾つかのステークホルダーグループからの記事を掲載している。

ISO 事務総長の Rob Steele 氏は、次のようにコメントしている。「テレビ、ブログ、ツイッター、携帯電話や新聞が同様のメッセージを広げています。世界は、社会的責任を要求しています。国際的に初めて承認された社会的責任に関する手引を提供する規格である ISO 26000 は、この世界の課題に対して世界的な回答を打ち出しています。」

「ISO 26000 がこの世界をより良い場所にすることに寄与することを確信しつつ、将来を見据えることができることを大変誇りに思います。」

『ISO Focus+』の3月号では、国連ジュネーブ事務局 (UNOG) の Sergei A. Ordzhonikidze 事務局長とのインタビューを掲載しており、国連ミレニアム開発計画についての最新状況と ISO との長い協力の歴史について語っている。同氏は次のように言っている。「ISO と国連との間の協力の意義は、双方の組織の委任事項に記載されています。知識の共有、活動の調整、共同研究及び出版、そして最も脆弱な人々の差し迫ったニーズに応える上で有効性と効率を確保することにその多くの意義があります。」

本誌ではまた、一般の人々が社会的責任と ISO 26000 に関する記事を書き競ったソーシャルメディア (フェースブック、ツイッター) コンテストの優勝者を発表している。ISO 26000 について世界が何を言っているかを知るには、ツイッターのハッシュタグ #ISO26000 をご覧ください。